

【山崎名誉主宰の俳句】

十二月

山崎 聰

めがねはどこにカチカチと冬の夜  
秋の長雨らし東京の石だたみ  
すこし寒くなつて東京の奥の奥  
とちぎは寒しとうきよう眩し丘の上  
深川のまんなかあたり冬の晴れ  
霜柱踏んでたしかに生きている  
今日のことだけを思いて雪の中  
雲か雪か遠山の日暮れどき  
ひそかなるたのしみ大雪のあとの景  
十二月こころを軽くして町へ